東 邦 幼 稚 園 だ よ り　　5月号　№3

とうほうの風

～ やさしい心 丈夫なからだ みんな仲よく ひとりだち ～

令和7年（2025年）　5月1日 発行

「 『挨拶』というコミュニケーションの“感性”を！ 」

～“風薫る5月”の出来事を「ことば」で表現しよう～

【園長：田川隆司】

いつまでも寒かった４月から、今度は陽差しに初夏の“暑さ”“眩しさ”まで感じるようになりました。

私たち「東邦幼稚園」でも新年度が始まって約一ヶ月が過ぎ、いよいよ「風薫る５月」を迎えようとしています。この東邦幼稚園だより「とうほうの風」は、学年からの通信同様に、原則月一回の発行を予定しています。幼稚園での子どもたちのことだけでなく、前号で述べた園の方針であったり課題であったり、または時勢にまつわる“園長のひとり言”のようなつぶやきも交えながら、ご家族で楽しんでいただけたらありがたいと感じています。（「コドモン資料室」でいつでも見られるようにしました）

さて、これから生きる子どもたちの将来のために、「学力」という“ものさし”で計られる場面が多い学校に対して、自由に動けるいまだからこそ確実に身につけておきたい能力を、様々な視点からアプローチしていくことが就学前教育の役割だと考えています。

世界中の人々が、「スマートフォン」という小さな機械で様々な“文化”を知ることができますが、そこには“フェイク”という偽物も多く、誹謗中傷の言葉も飛び交っているのが現実です。真否が定まらない不確定な「情報」が生活する地域・国内を越え、全世界に一瞬でアプローチできる危険と隣り合わせの世の中になってきた中で、真に“ひとり立ち”できる人間を育てたいと心より願っております。

ご承知の通り、園長の私が、学期の節目に子どもたち全員へ話す時、必ず言う言葉があります。

『早寝・早起き・朝ご飯』『挨拶・返事・靴揃え』呪文のように繰り返していますが、保護者の皆さんも必ずどこかで聞き覚えのある言葉ではないでしょうか。

インバウンド効果で外国人が多数来日するようになって久しく、ドラッグストアでの“爆買い”に始まり、“和食”を求めるグルメ旅からアニメの“聖地巡礼”。そして最近の流行は“体験型”へと…。様々なSNSを駆使して来日する彼らが共通して驚き、評価してくれることの一つが日本人の「ホスピタリティ」です。我々が幼い頃から当たり前に育ってきた環境で身につけてきたことが、“五感”という「感性」をとおして、世界中の人々の心を動かしているのです。なかでも「挨拶（あいさつ）」は至る所で驚かれます。『コンニチハ♬』だけでなく“ステキな笑顔”の挨拶は日本の“誇れる文化”でしょう。

大きく分けると「言葉」と「身振り」によるものが一般的ですが、世界中、そして文化圏ごとに異なったり、職業や年代によって使い分けたりすることもあります。もともと「挨」は押す（心を開く）、「拶」

は迫る（心に近づく）という意味がある仏教用語からきているのですが、「自分の心を開き、相手の心を推し量る」という意味が込められています。いつまでたっても「社会人一年生」が研修で学ばなければならないなんて正直なところ恥ずかしいことですが、集団生活の幼稚園デビューと同様に、人間関係作りを大切にし、その第一歩を見直すいい機会かもしれません。

また、欧米では「握手」や「ハグ」が一般的であり、身振りの中の「お辞儀」が、相手に屈服するイメージが強かったため相対的に日本人の「お辞儀」は良いイメージがなかった時代がありました。しかし、近年はオリンピック・パラリンピックなどで多くの海外アスリートが日本の「お辞儀」という文化をリスペクトしてくれたため様々なところで広まっているようです。

このように幼稚園でも「挨拶」の大切さを人間関係作りの基本として位置づけ登園・降園時をはじめ、あらゆる場面で互いを理解しあう方法として身につける目標としています。

我が子が主体性を持って、ひとり立ちできるようになるまで保護者の皆様も頑張りましょう。（社会人の「入社式」にまで保護者が出席する時代ですが…。）

園長の【四方山話（よもやまばなし）】

「四方山話」とは種々雑多な話、つまり「世間話」と思って気楽に読んでいただければ幸いです。

4月の入学式、進級式に満開になってくれた園の桜の花びらが、少しずつ散り始めた時、どんどん散っていくところを、ある園児が「こんにちは」の「挨拶」の後でした。『桜の花びらって落ちるんじゃなくて、降ってくるんだよ～！』と両手を広げて叫び、空を見上げながら笑顔で通り過ぎていきました。そう…、この『降ってくる』という言葉を聞いて、なんて純粋で美しい言葉を使う子なんだと感心しました。『落ちるんじゃなくて、降ってくるんだ』という言葉を知っている、あるいはそう教えてくださった大人がいる。なんというステキな“感性”でしょう。

中学校の校長として、あのコロナ禍でマスク越しの「挨拶」が普通になった時、私はそれと同時に手を振ることを始めました。思春期の彼らが手を振り返すことなんて、はじめは一人もいませんでしたが、「マスク越しでも“笑顔”なんだよ」ということを表現したくて、言葉で「挨拶」ができなくても「“会釈”という文化が日本にはあるんだよ」ということを言い続けたら、朝の登校時だけでなく下校時も会釈や手を振り返してくれる生徒が少しずつ増え、ほとんどの生徒たちと「挨拶」することができました。退職するときに全生徒からもらったメッセージに「恥ずかしかったけど、一度だけ手を振ることができました。あのことがきっかけで私は人と話せるようになりました。」と書いてくれた生徒がいました。わずかな“きっかけ”が少しずつ前向きな生き方に変わった時ですね。

園長として4年目を迎えた今年、園の前を通って登校する小学生、中学生はもちろんのこと、高校生から『おはようございます！』と彼らから声をかけられるように…。通勤される方を含め、日々地域を通られる方と気持ちよく「挨拶」を交わせる時間がとてもうれしいです。

東邦幼稚園が歴史とともにこの場所にあることは、本当に素晴らしいことだと誇りに思います。